

学外共同研究B ユースワーカー養成のための専門プログラム開発の研究

(研究代表者：産業社会学部教授 津止 正敏)

現在、小学生児童までの「子ども」を対象とした専門的な人材養成の例は高等教育機関における様々なプログラムの提案がすすみつつある。一方、中学生、高校生を中心とする「青少年」の社会教育分野での育成に当たるスタッフの必要性が高まっており、そのスタッフはボランティアを含めて存在するが、それを専門に養成する機関はない。青少年活動施設や団体などで青少年の育成に当たるスタッフの力量形成のために、専門的な養成プログラムができることは、近年の青少年をめぐる社会的な問題への対応にとって大きな意味を持つと考えられる。

本プロジェクトは、ユースワーカー養成のための専門的なプログラムを開発にむけてプログラムのコンセプト、教育内容と方法、資金計画等を含めた調査・研究を行なうことを目的に、京都ユースサービス協会との共同研究としてスタートさせた。

1. 本年度は、計3回(11月14日、12月16日、2月18日)の研究会を開催した。

2. 研究メンバー

立命館大学：津止、野田、遠藤。今後関係する教員・大学院学生を加えていく。

京都市ユースサービス協会：水野氏。今後関連する専門スタッフを、児童館関係、社会福祉協議会、NPO各団体他から客員研究員等として加えていく。

(今後の活動の見通し)

研究会スケジュール

2003年10月以降、関係者による下ミーティングの内容をもとに、2~3ヶ月に一度研究会を実施する。

2004年度中期に、公開研究会等を実施し、プログラム実施へのニーズやアイデアを広く集めて、教育プログラム実施の可能性への評価をすすめる作業をすすめることも検討する。

2005年度に開講、もしくは開講にかかわる本格的な検討に入ることを目標におく。